

時の動き

沖縄の勝利の意義と私たちの課題

労働大学運営委員 吉田 英和

全力を上げた自・公政権

菅義偉官房長官、二階俊博自民党幹事長、小泉進次郎自民党青年局長、片山さつき地方創生大臣、北側公明党副代表、小池百合子東京都知事。政権が支援した佐喜真淳候補の応援に沖縄へ乗り込んだ面々である。安倍政権を内外で強力に支える人物が沖縄入りしたことを見れば、沖縄県知事選挙にどれほど力を注いだかが分かる。

沖縄の民意が示された

結果は、辺野古新基地を造らせない

オール沖縄会議（オール沖縄）が擁立した玉城デニーさんが、知事選過去最多投票数39万6632票を獲得し、8万179票の差をつけ圧勝した。もう少しいえば県内衆議院4小選挙区すべてで過半数を得た完全勝利である。

安倍政権からの引きも切らない弾圧に屈しない沖縄県民の勝利である。政権側は最大の争点である基地問題を、バラムキ経済振興で覆い隠す常套手段と、玉城陣営に対する醜悪なデマゴギーで勝利できると思っただろうか。差別

され、押し付けられ、国との交渉さえも許されず、それでも挫けず、連帯し、闘い続け、育まれた沖縄の成熟した民

主義は揺らぐことがなかった。

この勝利によって、直後に行われた豊見城市長選では現職を退けオール沖縄の候補が当選し、那覇市長選では翁長市政を引き継いだ候補が再選され、来年行われる参議院選挙に沖縄県内では弾みがついた。あえて県内と書いたのは、主要メディアが大きく取り上げなかったこと以上に、大きな課題があるということである。

安倍政権打倒への課題

安倍政権、自民党支配を本気で引きずりおろす勢力が、いまだに確立され

◆時の動き

知事選2候補の衆院4選挙区別の得票率

	玉城デニー氏	50%	佐喜真淳氏
1区	57.1% (95952票)		40.9% (68662票)
2区	53.6 (98598)		44.9 (82595)
3区	54.84 (106674)		43.5 (84627)
4区	53.3 (95408)		45.0 (80574)

ていないということである。もちろん市民連合など、野党共闘を加速させようという動きを否定しているわけではない。オール沖縄に習い、打倒安倍政権という一点で大きな塊を作っていくことは、大歓迎すべきことである。問題はそれに結集し運動する労働者側にあるのではないだろうか。

私が所属する自治労では20歳代組

会員の、国政選挙における投票先ナンバー1は自民党であり、投票を棄権した割合も多かったという調査がある。組合への加入率も年々落ちている。組合員を責める問題ではない、組織が腐つてきているのだ。

都市部と地方の温度差

都市部ではSNSで集会の開催が発信され続けており、国会前と検索すれば、「沖縄を踏みこむな!」「止めよう!改憲発議」「原発反対!再稼働反対!」など、日常的に政治的運動が沸き起こっている。それらを中心的に発信しているのは、沖縄と同じ、会社や社会に踏みこじられた正規労働者や、社会的に作られた弱者たちではなからうか。一方地方ほどデモや集会は少なく、どこか沖縄や東京で起こっていることは他人事のように捉えてしまっている感がある。

組織された労働者の任務

この沖縄や東京のムーブメントは、沖縄や東京だけの課題でできているのではない。全労働者の問題なのだから、全国各地で燃え上がらなければならない。その任務を託されているのは組織された労働者である。私はそう信じて運動している。そのために日常的な運動、日常的な闘いを作り直さなければならない。決して絶えてしまっているのではない。非正規労働者の増加、過酷な労働、低賃金、憲法改悪、原発再稼働日本に住むすべての人にかかる問題なのである。資本に対する怒りを組織しなければならない。

沖縄の勝利は、踏みこじられつづけているのは「沖縄だけではない」ということを、改めて認識させたという意義は非常に大きい。

(よしだ ひでかず)